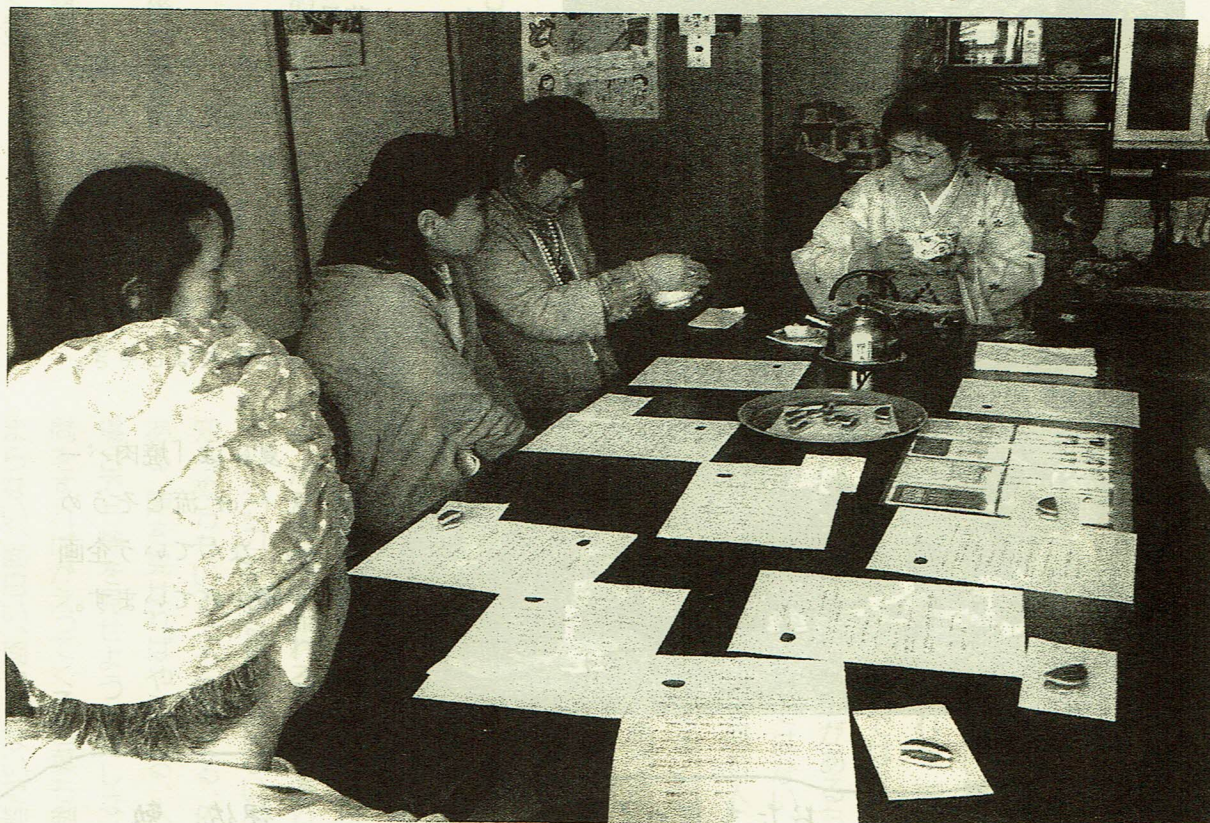


どんぐり工房だより

〒284-0005 四街道市四街道 1-6-11 田中ビル3階 TEL&FAX043-421-6645

E-mail:kibou_donguri@ninus.ocn.ne.jp HP:http://kibou-donguri.org

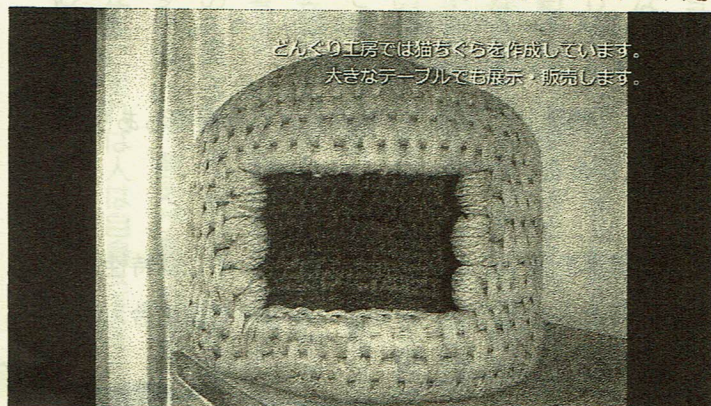


裏千家のお点前をやっています

ご指導をして下さるのは、裏千家茶道教授の佐藤宗順先生。

どんぐり工房に茶道愛好会が生まれました。月に一回の開催で伝統文化に親しんでいます。どなたでも参加自由です。もちろん美味しいお菓子も出されます。

(参加を希望される方は、どんぐり工房の月間の予定表をご覧ください。予約は要りません)



猫ちぐらご注文を

戴きました

大きなテーブルやicobaさんにも出品させていただいたおかげで少しづつ注文を承り、制作に熱が入っています。



いちご狩り&お花見

桜満開の4月初め、どんぐり工房のメンバーたちが、鹿放が丘の「佐藤いちご園」へいちご狩り、そしてふれあいセンターでお花見。

写真のようにふれあいセンターの周辺

はお花見スポット。お弁当は、みんなの手づくりで味は格別。往きも帰りも「ヨッピー」に乗って、みんな大はしゃぎ。

夏には「焼肉パーティ or 流しそうめん」なんていう企画が囁かれています。



どんぐりエッセイ

おたまじゃくしのつぶやき

伊佐 勉

私は網膜色素変性症による視力低下・視野欠損があります。変形性頸椎症からくる右上肢の筋力低下・腰部脊柱管狭窄症からくる腰痛及び両下肢の痺れや痛みもあります。そして5年前の前立腺がん除去手術の後遺症と思われる排尿障害もあります。正真正銘の障害者です。

「障害」の表記には当事者の間でも議論があります。「障碍」あるいは「障がい」にすべきという人もいます。英語の「チャレンジド」や「ギフトッド」がいいと言う人もいます。

私は、「障害」の「害」は「被害」の「害」と捉えているので違和感はありません。

英語を用いるなら、神様から挑まれたと考え「チャレンジド」が好きです。

また、障害を他の言葉で置き換えるとしたら、「個性」・「環境」・「制約」という提案もあります。私は、「特性」を推薦します。前向きな響きがあるからです。

私の障害はすべて改善が望めないし、新たな障害を負うことも想定されます。そこは特性を活かして日々を生きてゆく所存です。障がいのある人も未だない人も互いの違いを認め合えば世界中が平和になるとおもいませんか。

エルメスは「E」で始まる 知ってたか

(おーくま)

この尾根の 蟬

俄かに 鳴きだす (一)

夏だけなわの イチジクの美に

蟻 貼し (一)

うまへやのや 私もすいし 霊能者

(おーくま)

トタン屋根と 下わか雨 (一)

「ロン」や 食わずに飛び込む お手洗い

(おーくま)

多数決 気づけばいつも 少数派

(おーくま)

飯を喰い 風呂を済ませ

酒を 茶碗一杯飲んで 後は寝るだけ (一)

意味ないぜ 街の結婚相談所

(おーくま)

地元の人 八八回

(地元の人:A アナウンス:B)

B「生とは途切れた断片を眺める事でしょっか、強い印象が画面のように脳裏に映る、私の力の及ばない場面がここに多い、いえ、あえて言えば無力なのです、影を踏むようなものだから実感が無い、いえ、酷い絶望に陥る事もある、心理に暴力があることもある、ただ強い印象が残っても実体ではない、心理にびりびりように残っても形があるものではないから目で見られるわけではない、証拠を見せなくても言われたら何も人に見せることはできないから無念である、世間を自在に歩ける人は強い人であると思っけれど後ろめたさは無いものだろうか、いえ、そのようなことは考えるに値しない、いちいち考えるようであれば自分の足元が危うくなる、躊躇でもすればかえって足を損ねられてしまつ場面になる、余分なことを考えない、だから無遠慮な人に見える、負けることを嫌つ、勢いはその人にある、だが時間は流れるものでありいつまでもその人に力があるものではない、いえ、反省を知らぬ方もいるように見える、依然強い人である、隙を見せればやられる、人と口論する場合でも隙を見せようとはしない、なにか質問をすればかえってへる言葉も剣呑でありつまらないう、面白くないと判断するのも

どうかと思っけれど深慮を伺えるかどうか、それが肝心だと思えます、ではその人は幸福な人生を歩いているだろうか、空間しか考えていないように見えるけれど幸福とはその人の思いよつもあるから断言などできるはずもない、長く生きていくものは自然幸福を考えるようになる、自分は豊かな人生を生きてきただろうか、豊かな人生を歩いて行けるものだろうかと思えないわけではない、幸福とは一つではないからその人なりだろうけれど…老いは始めたものほど考えるようであり年を経なければ或る考えに至りづらい、禅などでは誰でも考える一つと唱えているけれど私には不自然なように思われてくる、誰が死ぬまで悟り続けることなど出来るものか、では本当に一で始まり一で終えるものか、それは他人と同質なものだろうか、老いたものの人生を幸福か不幸かを決めることは他人が決める事ではないけれどはた目からからして気になるところです、いえ、そこまで見るべきことではない、本音は知らなくてよい事なのです、だが幸福を考えていくときに社会というものは残酷なものに見えてくる、たった一人を捨てていくのですから、いえ、考えが違つのかも知れない、ある年齢に至れば人は自身さえをも捨てていくのかもしれないか」

(一)